

07・超あまあま『しつけ』セックス

トラック06『えっち漫画みたいなおっぱいいじめとオナニー告白』からそのまま続き。  
とある年の初夏。六月下旬、二十四時ごろ。

場所は、主人公と唯為理の自宅内寝室。

主人公と唯為理、ベッドの上で、主人公が唯為理を後ろから抱きしめる形で座っている。

主人公、唯為理が必死におねだりしてくるので、たまらない。

先日カーセックスした時は終始自分が攻められる側だったが、今日は大きく違っている。  
その場その場で優位性が大きく異なるなんて、かえって、とても対等な気がする。

セックスを、コミュニケーションとして楽しんでいる感じが、すごくする。

それがとても嬉しくて、だから『攻める側』という、今日のポジションにのっとって、  
少し意地悪になる。

〈主人公〉

「ふふ。……でも、頼まれてお仕置きしたら、それお仕置きにならなくない？」

唯為理、指摘されて、あからさまに焦る。  
その通りだからだ。

●中央 至近距離

「甘えた声で、でも露骨に焦る」

あっ♡ そんな意地悪、言わないで下さい♡」

〈主人公〉

「意地悪なんて言っていないよ♡

ただ、このままじゃお仕置きはできないなって思ってるだけ」

主人公、唯為理の胸を触っていた手をお腹に回して、抱きしめながら話す。

対する唯為理は、本当にしてもらえないとは思っていないが……今は焦らされている時間かもどかしい。

少しでも早い続きを懇願してしまう。

●中央 至近距離

「甘えた声で、でも露骨に焦る」

そんな♥ やめちゃやだ♥ お願い♥ 悪いおまんこ♥ しつけて下さい♥」※

〈主人公〉

「でもなあ……。

パジャマ汚されたショックで、そんな気分じゃなくなってきちやったかもなあ……。♥」

それでも主人公は、すぐには応じない。

露骨ににやにやして、くすくす笑いながら、唯為理のお腹を撫で続けている。  
おへそのあたりまでは触ってあげるが、その下へは手をやらない。  
だんだん、この前の仕返しをしている気分になってくる。

●中央 至近距離

「甘えた声で、必死におねだりする」

お願い♥ ちゃんと自分で♥ ぱんつ脱ぐからあ♥ ね?」

SE1 唯為理が自分で下着を脱ぐ音

「最初から最後まで流す」

SE2 唯為理の性器から、愛液が滴る音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

唯為理、しびれを切らして、自分から服を脱ぎ始める。

本当に自分は我慢弱い。こらえ性がなさすぎる……。

そう思いながら、まだ何も言われていないのに自分から下着を脱ぎ、性器を空気にさらす。

そこがどうなっているのかは……もはや言うまでもない。

まったく、こんな事、アダルトコミックのヒロインだってなかなかやらない。

つまり唯為理は、何かに影響されてるのではなくて、『えっち漫画の読みすぎ、描きすぎ』ではなくて。

本来の姿として、こういう人間なのだ。

興奮して、愛液でとろとろに濡れている股間を自分から見せて、いやらしい匂いを漂わせて、恋人を誘惑する。

あるいは、露出行為自体に喜びを感じる。

そういう人間なのだ。

●中央 至近距離

「※マークまで甘えた声で、必死におねだりする」  
ほら♡ ほら見て？ もう無理です。限界です。  
聞きました？

今、すごいぐちゅって音しましたよね。  
やらしい匂いも、しますよね？

【少し早口で。必死になるあまり、おかしい言葉になる】  
私あなたにしてもらえなかったら無理♡

お願い♡  
ちやんとくばってして♡ 指入れやすいようにするから♡ して♡ ※

〈主人公〉

「じゃあちやんと言おう？ どうしてほしいかわたしに言ってる？」

主人公、まだ何も言っていないのに唯為理が下着を脱いだので、驚く。  
身体の作りは同じはずなのに、今濡れている唯為理のそこは、こんなにいやらしい音が

するところだったか……と、思わず凝視する。

それでもなんとか焦らしながら、この前自分が言われたような事を言ってみる。

それにしても、シチュエーションは違えど、二人で、似た構図のセックスを、立場を変えて繰り返してるなんて。

なんだか、仲良くロールプレイをしているみたいだ。

つまりそれは、わたしの嗜好を無理やり唯為理ちゃんに押し付けているわけでもなければ。

わたしが、あまり望まない行為を『唯為理ちゃんの頼みだから』と、仕方なく受け入れているわけでもなくて……。

お互い、されて嬉しかった事、忘れられない事を相手にもしているって事なんだ。

やっぱり、あんまり普通ではないかもしれないけど……。

それって、すごく幸せだ。

## ●中央 至近距離

「少し早口になる。必死で、まったく余裕がない」

うん♥ 言うから。ちゃんと言うから♥

【少し間をあけてから】

お願い♡ 唯為理のおまんこ。あなたの指でほじほじして下さい♡」

〈主人公〉

「言えたね♡」

主人公、唯為理が想定したのよりも、はるかに過激な事を言うので、ドキドキする。そういえば先日、自分はこれができなかった。

指定された言葉とは、だいぶ違う事を言ってしまった気がする。

つまり、自分はこういう時恥ずかしがってしまうけれど、唯為理はこの、恥ずかしくなる感じがすごく好きらしい。

そう言った事がわかるのが嬉しい。

こんなに一緒にいる唯為理にも、まだまだ知らない事があるのだと、わかるのが嬉しい。

●中央 至近距離

「唇に軽く一回だけキスされる」

ちゅ♡

「少し間をあけてから。四回キスされる。甘々なゆっくりしたキス」

んんう♡ ちゅ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡

〈主人公〉

「……でも、このままじゃどこに入れたらいいのかよく見えないなあ。ねえ。もつと、ここ、大きく開ける？」

主人公、唇を離すと、唯為理の右耳に優しくささやく。  
それだけで唯為理はびくつとして、目に涙を浮かべて、でもすぐに大きく頷く。

SE3 唯為理の性器から、愛液が滴る音

【最初から最後まで流す】

●中央 至近距離

「【甘えた声で必死に】

あ♥ うん♥ 開（ひら）く♥ ちゃんともつと開（ひら）くから♥」

SE4 唯為理が自分で性器を開く音

【最初から最後まで流す】



●中央 至近距離

「甘えた声で必死に」

ほら♥ ここ♥ ここです♥ 唯為理の気持ちよくなる穴ここ♥

ここに挿(い)れて下さい♥

あなたの指を、入れられる一番奥まで入れて♥

じゅぽじゅぽって出し入れして下さい♥ お願い♥」

〈主人公〉

「仕方ないなあ♥」

SE5 主人公が唯為理の性器に指を挿入する音

【最初から最後まで流す】

●中央 至近距離

「嬉しい。入口に指があてられたので」

あ。

【少し間をあけてから。喘ぐ。挿入され始めて】

ああ………♥

【挿入される。圧迫感があり、少し苦しい】  
んっ。

【荒い呼吸を、ゆっくり、三回する。異物感に、少し耐える感じ】

はー……はー……はー……♡

【すごく嬉しい。すぐに気持ちよくなる】

ああ……♡ 入ってるう……♡

【荒い呼吸を、ゆっくり、三回する。今度は、気持ちよくてたまらない感じ】

はあっ……はあっ……はあ……♡

【声が低くなる。感嘆符としての『ああ』。あえぎではない】

ああ。

【すごく気持ちいい】

きたあ……♡ お腹。熱い♡ この押されてる感じ、好き……♡

【感嘆符としての『ああ』。あえぎではない】

ああ。

【ものすごく嬉しそうに。自分の下腹部をさすって】

♡ ここ♡ ここですよね♡ お腹のこの辺♡ あなたの指♡ 入ってるの、わかる……♡  
」

唯為理、主人公の指が挿入されているだろう所をさすって、うっとりする。

主人公のそれは細い女性のものだし、いくら小柄だからと言って、唯為理の身体は成人女性のものだ。

だから、挿入されても見た目には何も変わらないのに、挿れられているだろう場所を見ているだけで、とにかく嬉しい。

よくわからないけれど、お腹の中に主人公の一部がある事で、なんだかとても、自分が完璧なものになったような気がする。

SE6 主人公が唯為理の性器に指を出し入れする音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【スピードを全部で4段階にして流す】

●中央 至近距離

「気持ちいい。出し入れが始まって」

あ、あ、あつ。

【声が低くなる。ゆっくりと、すごく気持ちよさそうに】

はあ……っ……っ♡ いい……っ♡ すっ……いい。いいです……♡

【うわごとのようになる】

気持ちいい……。気持ちいい♡

【荒い呼吸を、ゆっくり、二回する】

はあっ……はあっ……♡

ああ……♡

【少し間をあけてから少し早口で。我慢できなくなる】

あの。ほんとに私、すけべで、ごめんなさい。えっち大好きでごめんなさい。ごめんなさい。腰、動いちゃう……♡」

唯為理、待ちかねていた快樂をとうとう与えられて、こらえきれずに自分から腰を動かす始める。

シーツに後ろ手に手をついて、夢中で快感を欲しがる、淫乱で、恥ずかしい自分さえ見ってもらう。

それから、少し前のめりになって、小刻みに腰を動かして、より好きなどころに当たるように調整し始める。

● 中央 至近距離

【低く、すごくゆっくりと喘ぐ。すごく気持ちいい】

あつ。あつ。……あつ。

【低く、すごくゆっくりと呼吸する。すごく気持ちいい。

腰を動かしながら息を吐いているイメージ】

はーっ♡ はっ。はっ、はっ♡ はっ、はっ♡ はっ、はっ♡

【とろとろになって喘ぐ】

気持ちいい……♡

☆【※30秒※ 吐息交じりに低めに喘ぐ。

自分の好きなペースで腰を振って、好きなように感じまくっている】

☆☆☆☆☆

★ はあ、はあ、はあ。ああつ……あつ。あ♡ あ、うっ。あ……♡ はあ、はあ、はあ

♡ あああ……あ♡ はっ、はっ、はっ♡ あああ……あ♡ あ♡ あああ……

♡

【とろとろになりながら、何とか話す】

ああ。えっち気持ちいいです。おまんこ嬉しいです。

私の中♡ あなたが入ってる♡ 幸せです♡

【うっとり】

気持ちいい……♡

☆【※15秒※ 吐息交じりに低めに喘ぐ。

自分の好きなペースで腰を振って、好きなように感じまくっている】

☆☆☆☆☆

★ はあ、はあ、はあ。 あ、あ、あ。  
あ……あ……あ  
あ  
あ  
ああつ……あ

♥ ああ……あ  
あ  
あ  
」

## 主人公



主人公、夢中で感じている唯為理が可愛い。

ただ、このままでは唯為理のペースだ。

それなら、一人でしているのとあまり変わらなくなってしまう。

唯為理は、すっかり自分の気持ちいい所を見つけて落ち着き始めているようだが……。

主人公はそれを崩そうと、手を動かす。

## ●中央至近距離

「高い声で驚く。急に主人公の指が別の場所へ向かって動いたので」

あ  
っ  
!?

【声が低くなる】

あ  
あ  
つ  
・  
・  
・  
・  
・  
♥

【ものすごく気持ちいい。今までよりも、少し下品な喘ぎ声が出る】

※以降『お』の喘ぎは、あくまで『可愛く聞こえる範囲』でお願いします※  
おっ……お♥ おおっ……おっ♥

【低い声で可愛くあえぐ】

だめ。そこ、だめ。だめ。すごい。あつ。

【少し間をあけてから】

良すぎい……♥

【低く、小さく喘ぐ】

あつ、あつ、あつ。Gスポ、だめ。

【ものすごく気持ちいい。今までよりも、少し下品な喘ぎ声が出る】

あつ♥ おっ♥ おおっ」

〈主人公〉

「一週間できなかったもんね。だから、一週間分、気持ちよくなるうね♥」

●中央 至近距離

「【低めにかわいく喘ぐ】

あ♥

一週間分？ 今から一週間分気持ちよくなるの？

【ものすごく気持ちいい。今までよりも、少し下品な喘ぎ声が出る】

ああうっ……♡

【低く、小さく、かわいく言う。すごく嬉しい。少しも嫌がっていない】

それ無理。無理です♡ 無理♡

【低く、すごくゆっくりと呼吸する。すごく気持ちいい】

はーっ♡ はっ♡ はっ、はあっ♡ はあっ♡

【少し早口になる】

そんなのされたらっ♡ おまんこ溶けちゃう♡ 気持ちよくておかしくなるう……

♡

【ものすごく気持ちいい。集中的に弱い所を狙われる】

ああっ♡ あ♡ おっ♡ おおっ♡

【少し早口になる。少しも嫌がっていない】

やだ♡ そこやだ♡ Gスポいじりもうやめて♡ いじめないで♡ 無理♡ ほんとに

無理♡ 変になっちゃうからっ♡

【高く可愛く喘ぐ。ものすごく気持ちいい。完全に無視されて攻められ続ける】

ああああ♡ やっ♡ やっ♡ やだあ♡ 許して♡ 許ちて下さい♡

☆【※30秒※ 喘ぐ。一方的にがつがつ攻められるが、ものすごく気持ちいい。

主人公に珍しく少し激しくされて、すごく幸せ】☆☆☆☆



★ あーっ♥ あっ、あっ、あっ。おっ♥ おっ♥ おおっ♥ はーっ、はーっ、はーっ  
♥ あああ♥ あっ。あっ。あっ。おっ♥ おおっ……♥」

〈主人公〉

「しつけてほしいんだよね。お願い、全部聞いてあげる。ほら、だから逃げないの」

● 中央 至近距離

「【ものすごく気持ちいい。今までよりも、少し下品な喘ぎ声が出る】  
おおっ……!？」

【もう音を上げてしまいそう】

やだっ。もう気持ちいいから♥ しつけやだあ……♥ もう気持ちいいのやだ♥

【完全に無視されて気持ちよくされ続ける】

あっ、あっ、あっ♥

好きなどこばっかだめえ♥ すぐイツちやうからやだあ♥」

〈主人公〉

「好きなどこいっばいしないと、お仕置きにならないよ♥」

●中央 至近距離

「ものすごく気持ちいい。今までよりも、少し下品な喘ぎ声が出る」

あっ♡ あっ♡ やだ♡ 許ちて♡ やめて♡ あ♡ うっ♡ おおっ……♡

「高く可愛く喘ぐ。いきそうなほど気持ちいい。」

ああーっ……♡

【三回ゆっくり呼吸して、いきそうなのを耐える】

はーっ、はーっ、はーっ……♡

はあ……もうだめ。こんなの……♡

【※マークまでとるところになって、うわごとのように言う】

こんなのされたらわからせられちゃう♡

あなたとしゆるのこんなに気持ちいいって♡ オナニーじゃもう無理って♡

おまんこねちねちじゅぽじゅぽされて♡ わからせられちゃう♡

☆【※15秒※ 喘ぐ。一方的にがつがつ攻められるが、ものすごく気持ちいい。

主人公に珍しく少し激しくされて、すごく幸せ】☆☆

★ ああっ♡ あっ、あっ、あ♡ あ、ああ……♡ あ♡ あ♡ あ♡ あっあっあっあ

♡ あ♡ あっあっ、あ♡ あ♡

☆【※10秒※ キスする。夢中で、じゅるじゅる音を立ててキスする】☆☆

★ んっ♡ ん♡ んー♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡

【荒い呼吸を、ゆっくり、三回する。いきそうなのをこらえている】

はあっ……はあっ……はあ……♡

【喘ぎすぎて、ほとんど泣きながら言う】

はあ、もうダメです。無理。ずっとしてたかったのにもういつちやう♡

お願い♡ もうおまんこ、ちゃんとわかったから♡ 中イキさせて下さい♡

ちゃんとほじってもらってイくから♡

唯為理に中イキさせて下さい♡

☆【※10秒※ キスする。唇をふさがれて、でも喘いでいるイメージ】☆

★ん♡ んんう♡ んー♡ ん♡ ふっ♡ んっ♡」

〈主人公〉

「ちゃんとわかってえらいね♡

そうだよ。

これからは、一人えっちしたいくらいえっちしたくなかった時は、ちゃんとわたしに言うの。

もしえっちできない日でも、ちゃんとそばにいてお手伝いするから。ね？」

●中央 至近距離

「高く、甘く喘ぐ」

ああああ……っ♡

「甘えた声で。すごく嬉しい」

うん♡」

〈主人公〉

「じゃあ、早くするよ?」

●中央 至近距離

「甘えた声で。すごく嬉しい」

はい♡ こうやって足開いて♡ 腰くいくいして♡

あなたの指気持ちいいところに必死に当てていくところ♡ 見て下さい♡  
恥ずかしくて淫乱で♡ ダメな子の唯為理♡ 見てて下さい♡」

●中央 至近距離

「☆【※15秒※ 低めに、ものすごく気持ちよさそうにゆっくり喘ぐ。  
いく事しか考えてない、夢中の喘ぎ。

主人公にどう見られるかはすっかり忘れて、快感に没頭している】☆☆

★ ああ、あつ。あ♥ あつ……あつ、あ♥ あーっ……♥ はっ、はっ、はっ。おっ♥  
んっ……ううっ♥ うっ♥ おっ♥ おおっ♥

【いきそう。うわごとのようにつぶやく】

ああ♥ おかしくなゆ……♥ おまんこしつけられて♥ 自分でするのよりずっといい  
の覚えさせられちゃう♥

☆【※15秒※ 低めに、ものすごく気持ちよさそうにゆっくり喘ぐ。

いく事しか考えてない、夢中の喘ぎ。

主人公にどう見られるかはすっかり忘れて、快感に没頭している】☆☆

★ はーっ、はーっ、はーっ♥ あ♥ あ♥ ああ♥ あああ……うっ♥ うっ♥ うっ♥  
♥ あ……おおっ……♥

【いきそう。とろとろになってつぶやく】

もう無理。

【イ『く』ではなく『ぐ』になる】

イぐ。イきます。

【声が低めから高めになる感じで、『1回・2回・3回』にわけた六回分、  
『いく』と、かわいくイきます宣言する】

いく。いくいく。いくいくいく♥

【少し間をあけてから。いく。低めに可愛く、長めに絶頂する】

うあああつ……♡」

SE7 唯為理が、どさっと倒れ込む音

【最初から最後まで流す】

●中央 至近距離

「六回呼吸する。だんだんゆっくりになる。呼吸を整える」  
はあ、はあ、はあ。はーっ、はーっ、はーっ……♡

【長めに間をあけてから。独り言のように】  
ああ……すっごいよかったあ。

わからせえっち、めちやめちや気持ちよかったあ……♡

【唇に軽く一回だけキスされる】

ちゅ♡

【そのまま三回、唇をふさがれるようにキスされる】

ん♡ん♡ふっ♡

【うっとり】

大好き……大好きです。

【唇に軽く一回だけキスする】

ちゆ  
♡  
」

ここでフェードアウトして終了。